

プロジェクトその

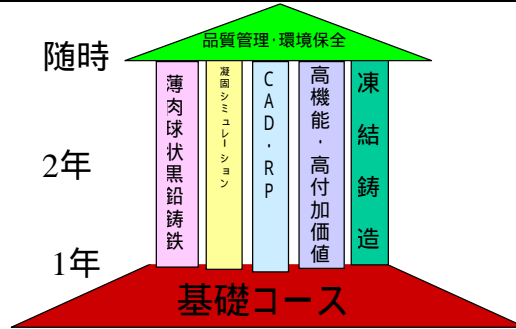
財団法人室蘭テクノセンター

事業メニュー		テーマ / 実績額 内容	メンバー
経済産業省	産学連携製造中核人材育成事業	<p>北海道鋳物産業における中核人材育成プロジェクト 実績額: 96,569千円(17、18年度)</p> <p>ものづくり基盤技術の継承・発展のため産学官連携のもと製造現場における中核人材を育成する。内容は薄肉球状黒鉛鋳鉄、鋳造技術に応用した材料複合プロセスの開発と応用、及び凍結鋳型を課題とし、日本を代表する「超鋳物」技術を擁する人材を育成するためのプログラムを開発することを目標に2年間実施してきました。その結果、平成19年4月から室蘭工業大学大学院材料物性工学専攻内に「ものづくり工学コース」を開設するに至り、本事業の開発成果である実践的教育プログラムを活用することとなります。</p>	<p>(管理法人) 財団法人室蘭テクノセンター</p> <p>(再委託先・実施機関) 室蘭工業大学、道立工業試験場、 (株)日本製鋼所室蘭製作所 (協力機関) (株)渡辺鋳工所、(株)光合金製作所、 トヨタ自動車北海道(株) 外</p>

本事業は、鋳造現場における高度技術者を養成するためのカリキュラムを開発する事業で、平成17年度は基礎科目のカリキュラムを開発、テキスト3冊、副教材であるDVDを作成しました。

平成18年度は実践的教育を本格化させ、凍結鋳造、高付加価値、高機能化、CAD、RPなど応用科目5科目の教育プログラムを開発、多くの企業の協力の下、実証講義、インターンシップを行い、テキストと副教材DVDを作成しました。

本事業で開発されたプログラムは、平成19年4月開設の室蘭工業大学大学院材料物性工学コース「ものづくり工学専攻」で生かされることとなります。引き続き、本コースの教育カリキュラムを実践的視点からPDCAサイクルにより見直しを掛け、よりよいものにしていく予定です。本事業にご協力くださった方々に深く感謝申し上げます。



実践的教育カリキュラムを開発するために、実証講義、インターンシップを実施しました。



SolidWorksで作成したモデルをRPに送信、鋳型成形品が完成する様子。ITを鋳造現場の設計に活用することの一例。(北海道工業試験場における実習にて)



通常の鋳型と凍結鋳型の両方に注湯、鋳型をばらし比較検討している様子。凍結鋳型の特性、品質を実体験で理解することとなる。(株)光合金製作所と室蘭工業大学によるインターンシップの様子)